チャレンジ！一歩前へ

郡山市立大槻小学校
学校だより　No.32
令和４年１１月２８日
文責：校長　酒井　健

◇　「避難訓練」が行われましたが・・・

１１月１８日(金)の５校時、避難訓練を行いました。「避難開始」という合図から、全校生が校庭に避難し、各学年主任から私に「避難終了」の報告が行われるまでにかかった時間は**3分38秒**。これは、とてもすばらしい時間です。児童、教職員合わせて約５９０名ほどが一つの避難場所に避難するのにかかった時間としては、とても早い時間であると思います。

しかし、この避難訓練を校庭で見ていて感じたことは、**「話し声が多すぎる」「ふざけた態度で集まってくる」「友達と肩を組んで走ってくる」・・・つまり、真剣さに欠けていた子どもたちが多かった**ということでした。避難訓練の目的は、いざという時に、自分の生命は自分で守る！ことができるようにするということです。今回の避難訓練は、もしかすると、子どもたちにとって**「どうせ、訓練だから」「地震・火事なんて本当は起きていない」**などという気持ちで、**恒例のイベントに参加している**というようなものだったかもしれません。

これでは困ります。保護者の皆様、「釜石の奇跡」はご存知かと思います。

岩手県の釜石市では約1,300人もの人が亡くなったり行方がわからなくなったりしました。大槌湾に面した鵜住居地区も、津波で壊滅状態となりました。しかし、この地区の鵜住居小学校と釜石東中学校にいた児童・生徒約570人は、全員無事に避難することができました。

これは「釜石の奇跡」とよばれています。

「釜石の奇跡」は、子どもたちが、単に運が良かったからというものではなく、この地域で日ごろから行われていた防災教育を学んだ子どもたちが、自分たちの普段から行っている行動を当たり前に実践した結果が起こしたものです。

子どもたちは、自らの手で登下校時の避難計画を立て、津波の脅威を学ぶため防災授業を受けていました。また、年に1回、鵜住居小学校と釜石東中学校の合同訓練が実施され、 小学生を先導する」「まず高台に逃げる」という教えも徹底されていました。

そして子どもたちは、次の「避難3原則」を徹底して身に付けていたのです。

①想定にとらわれない　②状況下において最善をつくす　③率先避難者になる

今の子どもたちは、東日本大震災の恐怖を知らない、記憶に残っていない子どもたちです。また、いつかあのような大きな災害が発生することも想定されます。そのような中での「避難訓練」です。学校では、これからも、子どもたちへの防災教育をしっかりと行っていきます。ご家庭においても、上記の「避難３原則」などについて、お子様と話し合っていただけたら幸いです。次回の「避難訓練」が楽しみです。

校長のひとりごと

昨年度も言いましたが・・・私の好きな詩です。

その一言で　はげまされ　　その一言で　夢をもち　　その一言で　腹がたち
その一言で　がっかりし　　その一言で　泣かされる
ほんのわずかな一言が　不思議に大きな力をもつ　ほんの　ちょっとの　一言で

子ども同士も、そして私たち大人も、「発する一言」に注意をしていきたいものですね。